



トピックス 北地域総会終わる

平成30年度（2018年度）東京都支部北地域総会が、去る4月16日（火）の夜開催され、本年度の活動実績と決算が承認され、また、新年度の活動計画と収支予算が決まりました。また、理事・代議員の交代人事も決まりました。私も今期にて代議員を退任させていただきました。引き続いて、担当教室の指導を中心に微力ながら日本健康太極拳協会の活動に参加し、また楊名時太極拳の普及に努めてゆく所存です。

閑人閑話 平成から令和へ

見出しを篆書体のフォントを使って「平成から令和へ」としてみました。平成ならざる「平成」が終わり、この新しいきれいな年号「令和」にこもごもの願いと思いを託したいというのが大方の雰囲気のようなのです。

ただし、世界を見ると、ありとあらゆる矛盾が噴き出しつつあるようにも思えます。政治、経済、宗教、民族、貧富、災害、資源、環境、人心、などなどすべてが複合的に作用しつつ、のっぴきならない方向へと傾きつつあるように思うのは私だけでしょうか。

無力な一個人としては、「令和」というすがしい言葉を念ずるように唱えるだけです。つたないものですが、短歌で思いを詠いました。

日本だけは何とか平和であったらし三十一年の平成終わる
世界中平和は成らず貧富の差ますます増え行き平成は去る

天つちに^は美しき平和の早よ来よと念じて迎える令和元年

左顧右盼 第22話 『太極拳とは何か(再編集・再掲版)』(第11回)

～趙匡胤の「探馬勢」から太極拳の「高探馬」にいたる軌跡をたどる～

24 日本武術太極拳連盟創設へ

当時、楊名時先生とは別に、簡化二十四式太極拳を北京で李天驥先生から受講し、その後、日中国交回復の流れの中で、本格的に普及と組織化を図って来られたのが、当時の自民党の代議士で、のちに厚生大臣なども勤められた古井喜実氏です。このことは楊名時先生も自著の中で詳しく書かれておられますが（Aの151～）、1978年、日中友好条約が締結されると、『日中間の伝統的武術交流を緊密に行う』という約束が両国間で取り交わされました。（中国側は太極拳を、日本側は相撲を前提にしたものです。日本は1973年と2004年の2回大相撲の「中国公演」を行ったのみです。どうやら、本気度がまったく違っていたということだったのでしょう。）

そうして、1980年には「中国武術代表団」が来日して、各地で公演を行いました。また、1987年には『日本武術太極拳連盟（初代会長・古井喜実氏）』が結成され、さらには1988年には日中友好会館（飯田橋）の開館に伴い、同所に「日中健康センター」が開設され、太極拳、太極剣、気功などの教室が開講しました。ちなみに講師として中国政府は、李天驥先生の息女である李徳芳女史な

どトップクラスの人材を派遣し、現在に至っているわけです。
この間の流れを一表にまとめましたので、ご参照ください。

簡化二十四式太極拳と楊名時太極拳の日本での普及年表

西暦	昭和	日中間の重要事項	簡化二十四式太極拳	楊名時太極拳
1949	24	新中国成立		
1956	31		簡化二十四式太極拳制定	
1958	33	中国武術協会設立		簡化二十四式太極拳掛図入手
1959	34	新中国成立 10 周年	古井氏ら北京で受講、掛図入手	
1960	35			A A 学院で指導始める
1966	41	文化大革命始まる		
1967	42			日本武道館で開講
1969	44		日本太極拳協会設立（古井氏）	
1972	47	日中国交正常化	武術関係者往来始まる	
1973	48			日本武道館を去る
1975	50			楊名時八段錦太極拳友好会発足
1978	53	日中友好条約締結		
1980	55		中国武術代表団来日	李天驥団長と会談
1986	61			李天驥先生を招待
1987	62		日本武術太極拳連盟設立	
1988	63	日中友好会館開館	館内に日中健康センター開設	

一品・一葉・一会 第12回 小壺と燈明皿

(小壺；1977年チリー・サンティアゴで購入。灯明皿；2002年フランス・シャモニーで購入)

上の小壺はアンデス土器を模した安いお土産品で、チリーの首都サンティアゴでいくつか買い求めたもののひとつですが、あまりにも可愛いので、一つだけ残しておいたものです。チリーは南米の西南部にある南北 400 キロ、東西 20 キロと言う細長い国で、西は太平洋に面し東はアンデス山脈によって区切られています。生ガキはじめサーモンなどが美味しかったこと、また機中から見た南米最高峰のアコンカグア山の威容などが思い出されます。個人的には、モアイ像で有名なイースター島へぜひ行きたいと、その後ずーっと思っていたのですが、その願いはもうかなえられないようです。



小壺が乗っている小さな棚は小生の自作です。下に灯明皿を下げて、一体として飾っています。灯明皿はシャモニー【左】の街中の朝市で見つけたものです。フォルムが面白いので、即購入しました。モンブラン登山（もちろんロープウェイで）、周辺の山々のトレッキングなど懐かしく思い出されます。シャモニーは都合 3 回訪れましたが、たいへん魅力的な街です。

平成最後のさくらを追って（と言ってもこの春は都内だけでしたが）、あちこち見て回りましたので、写真と短歌の組み合わせでご披露します。

3月27日（水） 千鳥ヶ淵・小石川後楽園・大横川と妻と二人で花見のはしごをする。

【九段坂・千鳥ヶ淵】

異国人もあまた交りてともどもに
さくら愛である田安門前
大山さんも大村さんも無視されて
人波はただ花を追いゆく

大山巖；元帥陸軍大臣・九段坂に銅像あり

大村益次郎；日本陸軍創設の祖・靖国神社に銅像あり



【小石川後楽園】

青空と池と築山背景に枝垂れ桜は姿よく咲く

着物着て日傘傾け桜見る^{たおやめ}手弱女覗けば

なんと^{くーにゃん}姑娘（姑娘とは中国語の「御嬢さん」の意味）

【大横川（門前仲町）】

花見船ゆるり行き交う深川の大横川に桜枝垂れて
川べりにこの春できた川床の
桜の下でちょっと一杯

3月29日（金） 東大島鶴の会恒例の花見。大島小



松川公園

で行うも寒くてたいへんでした。

ビール飲めば震えが来そうな花冷えに

花見するのも一期一会ぞ



4月1日（月） 旧友4人で浅草寺に参詣し、隅田公園で花見をして、神谷バーで飲む。

金色の相輪高く空を突く

五重塔をさくらが飾る

背景にスカイツリーがあればこそ

隅田の桜は絢爛と咲く

4月3日（水） ひとりで、駒込の東洋文庫ミュージアムに「インドの絢爛」展を観て、次いで、六義園に入り、しだれ桜を鑑賞。名物の三福団子を一串いただく。



春四月いまだ冷たき北風に

枝垂れ桜は哀れ散りゆく →

名物の三福団子食みながら

六義園の故事に思いいたせり

4月4日(木) 近くの「わかさ公園」で週2回早朝6時過ぎから太極拳をしている皆さんと桜の下で記念の一枚。→

4月5日(金) お花見日和なので、東大島鶴の会の有志と大島小松川公園で再度の花見。花吹雪もあり、皆さん大満足! ↓



4月6日(土) 「早朝野外太極拳の会」の土曜日の朝の例会。桜の下での太極拳。↓

4月6日(土) 近くの新田公園で二人のお花見ランチ。暖かく桜も満開、時おり花吹雪が舞う。まさに平成最後の花見となりました。

公園に遊ぶ親子を見るうちに

話題は還る子育ての頃

平成の最後の花見と理屈付け

花吹雪の下杯を重ねる

酔眼に見上げる桜眩しくて

まなこ閉じれば桃色の幕

ほろほろと散りはじめたる樹に倚れば何やら哀し空の青さえ



八重桜^{うこん}鬱金桜を見んものと遠回りしてゆく親水公園

